

岸和田健老大学歴史探訪

『法隆寺探訪の旅』

令和4年11月10日(木) 児島 建次郎講師の解説付き



今回は、元NHKアナウンサー児島建次郎講師と日本初世界遺産に登録された法隆寺で、健老生45名は合流しました。第130世法隆寺住職に就任された、古谷正覚管長と児島講師の対談を見学しました。昨年4月3日行われた、聖徳太子1400年御遠忌のお話や歴史について、とても朗らかな古谷管長はユーモラスを交えながら、楽しい対談となりました。

地蔵院での対談





法隆寺は 607 年聖徳太子が、父用明天皇のために創建。
670 年落雷がもとで焼失。（日本書紀記載）
再建時期は不明だが、建築様式から金堂、五重塔、仁王像のある中門、
回廊の順で造られたと言われている。しかし、法隆寺は不思議がいっぱい。



対談の内容

- ・ 2019 年 10 月前管長大野玄妙師が急逝され、2020 年 10 月古谷管長が引き継いで、2021 年 4 月の聖徳太子 1400 年御遠忌を無事やり遂げられた。
- ・ 聖徳太子の「和の精神」・「根幹に利他の心」の教えを説明された。
- ・ クラウドファンディングでの寄付のお話も少しだけ。



南大門

午後からは、古谷管長の御子息・見島講師と共に東院伽藍の夢殿から西院伽藍の金堂・五重塔など説明を聞きながら見学しました。



東大門



夢殿

いかるがのみや ぎょうしんそうず
聖徳太子の斑鳩宮跡で、行信僧都が太子供養の伽藍の建立を發願し、748年太子信仰の聖地となる。八角円堂の中央の厨子には聖徳太子等身の秘仏救世観音像、聖徳太子の孝養像、乾漆の行信僧都像、夢殿修理の道詮律師の塑像が安置されている。特別開帳の時期で見ることが出来、説明も熱心に聞いていました。





だいほうぞういん
大宝蔵院



くだらかんのんどう
平成 10 年に落成した、百済観音堂を中心とする大宝蔵院です。1400 年に及ぶ法隆寺の信仰の遺産であり、法隆寺の歩んだ道のりをうかがわせる貴重な宝物がいっぱいありました。



百済観音像



夢違観音像



玉虫厨子



中門と回廊



金堂と五重塔



法隆寺のご本尊を安置する聖なる殿堂が金堂です。聖徳太子のために造られた金銅釈迦三尊像、太子の父用明天皇のために造られた金銅薬師如来坐像、母君穴穂部間人皇后のために造られた金銅阿弥陀如来坐像が安置されていました。

五重塔は釈尊の遺骨を奉安するためのもので、わが国最古の五重塔。



昼食・SAでの風景



晴天に恵まれ、とても内容のある一日でした。小・中学校の修学旅行生がいっぱいでしたが、一番熱心に勉強した自信があります。

法隆寺のたくさんの方に良くして頂いたのは、見島講師のお陰だと思えます。ありがとうございました。

健老生も二日前のバスツアーで慣れた感じで、スムーズに行ったと思えます。やっぱり説明付きの見学はとても勉強になり、最高です。今回も大成功でした。広報局の皆様ありがとうございました。